

2019年12月7日 北海道新聞朝刊

干支がモチーフ パズルなど寄贈

めぐみ学園、町に

【南幌】障がい者支援施設南幌めぐみ学園（栗林和史理事長）は、来年の干支（えと）の木製パズルと和紙工芸品を町に寄贈した。4日に職員と利用者5人が町役場を訪れ、三好富士夫町長に手渡した。

利用者が職業訓練の一環で、来年の干支のネズミをモチーフに1週間ほどかけて作った。地域貢献とお世話になってのお礼にと寄贈。利用者が「時間をかけて丁寧に作りました」と話すと、三好町長は「とても綺麗な仕上がり。大切に飾ります」と応えた。

同園は同日、町内の特別養護老人ホーム南幌みどり苑にも和紙工芸品を贈った。（岡田典子）



来年の干支のネズミをモチーフにした工芸品を贈っためぐみ学園利用者ら